

72

特240

885

歐洲より日本を見て

有吉忠一



0001248000

0001248-000

特240-885

欧州より日本を見て

有吉忠一・著

佐藤新興生活館

昭和14

AAC

特240
885

歐洲より日本を見る

有吉忠一

読後のつとめ

新年をめでたうございます。この新年の始まりに、皆さんにお話をする機会を
私に非常に愉快に感ずるのであります。

寒いと言ひますけれども、この部屋に入ると寒にあつたかい。この平和なる新年をこう
やつて楽しんで居る。これは全く聖代の御恩澤であります。

然し今我國は支那と戦争をして居ります。あの地に於て働いて居る人々の身を考へます時に
我々は向ふの人の艱難辛苦に思ひ及んで、何となく我々がこうやつて、あつたかに平和に居と

歐洲より日本を見る



る云ふ事を勿體なく感ずるやうな気が致します。さればと云つて、我々はこういふ有難い境遇に置かれて居るのでありますから、何も向ふの人の通りを真似るにも及ばない。然し自ら我々には、又我々に課せられて居る責任があります。その責任は何かと云へば、所謂銃後の勤めを全ふすると云ふ事でありませう。

銃後の勤めと云へば、出征軍人の見送り、或は傷病兵の慰問、或は戦死者の御遺族の救護、慰問、その他それ／＼出征して居る人に對する我々の同情を表すると云ふ事も、もとより銃後の勤めの一つでありますけれども、最も大事な銃後の我々の勤めは何であるかと云ふと、それは言ふまでもなく、お互ひ我々の勤めを、本分を、十分によく盡すと云ふ事でありませう。その本分は、即ち平素より一倍働いてそれだけの効果を擧げ、さうして一倍平素より儉約をして餘裕を作り、その餘裕をもつて公債に應じて、第一線の人に不自由のないやうに、食糧、彈藥などあらゆる點にまで、盡されるだけ盡すと云ふ我々の勤めでありませう。これが銃後に於ける我々の責任であります。

重要な當面の問題

支那に於ける戦争は幸にも御後威のしからしむるところと、我忠勇なる兵士の働きによりまして順調に行つて居ります。人によれば「先づ峠を越した」と云ふ人もあります。始めは随分犠牲を拂ひ、非常な苦戦をしましたが、鎧袖一觸とでも云ふのか、もう大した事はあるまいと思はれる程になりました。私はこの間も聞いたのであります。蔣介石はまだ百萬ぐらゐは兵をもつて居ると云ふ事ではありますが、その訓練、その兵器、とても我軍の比較にならず、況んや士氣に至つては、非常に沮喪して居るさうでありますから、今までのやうな苦勞を將士が嘗めると云ふ事は無ささうに思へるのであります。さうしたならば戦争は山が見えたと云つて差支へないでせう。然らばこの重大時期は過ぎたらうかと云ひますと、私は今後に来るべきものが、最も重大なる問題だと思ふ。今までは、もとより困難ではありましたが、すらくとやつて参りました。然し今後が大事だ。今後起つて来る重大なる時局を、我々は如何にして處すべ

きか。これが我々の當面に課せられて居る問題であります。殊に皆さんも承知して居られる筈であります。新聞等に傳つて居る、イギリス、アメリカ等が、支那に於ける自分達の權益を非常に損ぜられた、それをどうするかと云ふやうな事を云つて参り、又九ヶ國條約を楯にして支那の領土保全と云ふ事を言つたぢやないか、それを蹂躪したのはどうした事かと云ふやうな様々な難題を持つて來て居ります。これは武力を持つて向つて來るかどうかと云ふ事は問題でありますけれども、經濟的に何等かの方法をもつて、日本を苦しめようとするであらうと云ふやうな事が追々傳つて居りますが、これはありさうな事ではありません。今日以後に於けるこの重大なる問題を如何にして解決するか。これが今我國が當面して居る最重要の問題であります。

眞の國力とは何か

これはヨーロッパの様子をみても解る。この間獨逸は、ベルサイユの條約によつて、ちやん

と各國の領域と云ふものがきめられて居るのに、ベルサイユ條約と云ふやうなものは、現在に適しないと云ふので、オーストリーを併合してしまつた。それからこの間はステーテンの地方を又併合した。然るにあのベルサイユの條約を、大戦争の結果作りあげたものを破つてゐるのに、他の國は何等制裁を加へる事が出来ない。獨逸の思ふ儘にやらしてしまつた。結局これは國力の問題だ。獨逸に力があるから如何ともすることが出来ないのであります。

そこで我日本も、この支那の問題を解決するのは、唯國力如何の問題に歸着してしまふと私は思ふのであります。若し我國にして十分に備へあらば、英米が何と云つて來ても恐れるに足らない。結局最後に解決するものは國力である。さうするとその國力を、日本がどの程度まで有つて居るであらうかと云ふ事を考へてみたいのであります。西洋の人々はみな統計、數字と云ふものに非常に重きを置くのであります。そこで一つ考へてみると、面積では支那と日本は比較にならない程支那が大きい、又人間の數に於ても大變な違ひがありますし、天然資源も亦大變な違ひがあると云ふ風に數字を土臺にして比較して其の結果を豫斷して居るのであり

ます。これももとより大切であります。然し私はこの國力と云ふものに就て斯う云ふ風に考へて居ります。

國力を計算する基準となるものが、三つあると思ふ。その第一は兵力であります。兵備であります。第二は経済力であります。第三は國民の精神であります。

事變の始めに於てこれらに付いての、日本と支那との比較はどうであつたか。先づ第一の場合をみると、比較にならない程、支那の方が兵器も進んで居つたし、軍隊の数は、日本の數十倍もつて居た。又経済力も、天然資源について見ても、比較にならない程支那の方が多い。だからこう云ふものを比較してかゝれば、日本の國力は支那に較べて甚だ弱かつたと云つても差支へないと思ふ。然し乍ら第三の一番大事な要素になる國民精神と云ふものは、支那と日本では非常に違ふ。而してこの國民精神と云ふものは數字で表はすことは出来ない。即ちこの國力は、數字で表はし得る部分もあるが、一番大事な要素は、數字では表はす事が出来ない。

そこでこの日本の國力を、數字などをもつて現はす譯には行かぬと思ふのであります。尙ほ

私は本日は、兵數やら貿易の高とか、金準備の數字などを上げて、これをお話ししようと云ふ心算で参つたのではありません。

私は國力の一番大切なる要素である國民精神に就て、私がヨーロッパに行つて感じた所を、皆さんの前にお話をしてみたいと思ふのであります。

韓非子と云ふ支那の本があります。その中の説難と云ふ編の中に、麤の輕重を知るものは麤の外にあらなければならぬと云ふ事を云つて居ります。麤の中に居つては、その麤が重いか輕いかと云ふ事は分らない。外に出て始めて始めて分ると云ふ言葉があります。

我日本國の國民精神、兵備や經濟問題は別問題にして、國民がもつて居る國民精神の様子を見るのも、日本國內に居つて、お互ひ同志が始終附合つて居るだけでは、果してどう云ふ美點があり、缺點があるかと云ふ事はよく分りません。一度足を國外に踏出して、全く違つた社會に入つて振返つた時に、始めて我國の國民精神の姿が、自分の眼にはつきりと映るやうに感ずるのであります。

歐洲より日本を見る

三十年振りの歐洲

私は今度ヨーロッパに行きましたのは三十一年ぶりでありました。三十一年前、一九〇七年（明治四十年から四十一年）にかけてヨーロッパに参りました。その時も、イタリー、獨逸、イギリス、フランス、ロシア、スイス等を廻りました。今度も矢張りそれらの國を廻りました。殆んど前に通つた所を通つて見て参りました。さうして一番に感じた事は、どうもヨーロッパは、日本が進歩した程進歩して居ないと云ふ事でありました。その一番近い例は鐵道です。この前ヨーロッパに行つた時は、見る物、聞くもの、みな日本は、はるかに遅れて居つた。向ふの方が文化が進んで居ると云ふ事を感じする事が多かつた。今度行つて、定めし日本があれだけ進歩發達して居るから、西洋も發達して居るのだらうと思つて行つた。所が向ふの様子は三十一年前と餘り變つて居らぬ。

その一例として鐵道を引いてみたいのですが、向ふは廣軌でありまして、機關車も大きいし

速力も速い。この前は日本の汽車と西洋の汽車を較べると大變に違ふと云ふ事を感じたのであります。所が今度行つてみると、何だこんな汽車だつたかと思ふ。依然として汚い汽車で、これは戦争の結果もありませうが、古い車を引つばつて居つて、又その揺れる事は非常なものです。ミラノからスイスに入つて、サンゴタールのトンネルを越えた時などは、非常に揺れた。殊にフランスがひどい。所が日本のは狹軌です。それでもつて可成りスピードを出す。燕などはステーション近所になると揺れますが、あとはそんな事はない。我國の進歩の方が、はるかに向ふの進歩よりも早かつたと云ふ事を感じしめられるのであります。然しさう申すからと言つて、日本の方がはるかに上等だとは言はない。向ふは廣軌ですが、然し汽車賃が高いのです。世界中で日本のやうに汽車賃の安い所はありません。總ての物に付て日本は安くつていゝ物を潤澤に得られると云ふ事を、しみじみと感じました。ミラノからベルリンまで丁度一晝夜かゝる。その汽車が寝臺車の賃金百五十何圓もかゝります。然し賃銀が高い代りに中の設備は贅澤であります。その高い事、實に驚く。高いだけの事はあつていゝ事はいゝが、値段の違ふ程

歐洲より日本を見る

決して違つては居ない。

躍進日本の原動力

この一事を見ても、我國の進歩が、はるかに外國よりも速い。速かつたと云ふ事を感じる。何が斯う云ふ原因になつたらうかと云ふ事を、私は一人考へさせられたのであります。これが私は矢張り國民精神の優れて居る事、我國國民精神の優秀な所にあると云ふ結論をしたのです。私は外國人の住んで居る地方に長く職を奉じたのであります。神戸に前後七年程、横濱に前後十六、七年、朝鮮にも居り、その間外國人と接觸しなければならぬ機会が多かつた。段々觀察をしまして、今度又ヨーロッパの社會の實狀を目撃したのであります。そこで私は、西洋人の心理と、日本人の心理とは、非常な違ひがあると云ふ事を確めたと云ふやうな氣持がするのであります。

第一に私は、日本人は自分を犠牲にして親の爲、子の爲、又君の爲、夫の爲、妻の爲、この

自分の接觸する周圍の前に、己を空しうして、その人の爲をはかると云ふ親切の心と云ふものが非常に強いと思ふ。この點は西洋人と較べて、私は比較にならない程優れて居ると考へる。耶穌教の開祖たるイエスは、己の身を犠牲にして凡ての人を救ふと云ふ事で、神として崇められて居る。この犠牲と云ふもの、精神を耶穌教は傳へるのであるから、その精神が旺盛でなければならぬと思はれるのであります。實際はどうもあちらの人の心理は、先づ自己本位である。自己を中心にした所から、凡てのものが割出される。政治上の議論、道徳上の議論、すべてが己を本位にしたものから割出されて居る。我國では浪花節でも淨瑠璃でも、極く一般大衆に向つてアツピールするものは何かと云ふと、己を空しうして君の爲に、親の爲に圖つたと云ふ事が稱へられて居る。自然にこの觀念が一般國民に傳つて傳統的になつて居ると私は思ふ。その次に日本人の特徴と思ふのは勤勉な事です。西洋人も勤勉であります。然し乍ら日本人の勤勉とは發足點が違ふ。どう云ふ發足點が違ふかと云ふ事は少し後でお話をします。第三には、日本人は自分の仕事に樂しみを見出す。働きつゝ樂しみを見出すと云ふやうな趣味をもつ

て居る。これが西洋とはまるで違ふ。仕事は仕事、楽しみは楽しみと云ふ考へ方は西洋人のものであります。この三つの點この違ひと云ふものが、これが今日の西洋と日本との進歩の度が違ふ原因です。日本が西洋に追いついて來た所以です。さう私は確信する。丁度私がフランスに居りました時に、四十時間労働と云ふものの可否が非常に論議された。人民戦線派、即ち共產主義の多數の占めて居る内閣、その内閣で四十時間と云ふものを實行した。これはもう將來の産業が萎靡することはきまつて居る譯であります。何故ならば他の國が四十八時間労働をやつて同じ賃金をやつて居るに、フランスでは四十時間働いて同じ賃金をやるのならば、値段が高くなるのにきまつて居る。困るのは子孫が困るのだ。今の俺達は少く働いて多く遊ばうと云ふやうな考へ方をして居る事が問題の起る所以だ。子孫を考へる事はない。考へる事がないと云つてもいい。それだから四十時間を實行した譯だ。

それから又仕事をする場合日本人の徳義として、例へば一つの商店に働いて居る。すると誰か友達か、朋輩の一人が故障があるとか何かして店に出て仕事が出来ない時には、その人を助

けてやるのが徳義だ。所が西洋では助けるのが不道德だ。朋輩がやれない時には他の人を雇つて來る。それだから自分がその代りをやつてやるのは人の仕事を奪ふ事であると云ふ。實に徳義の觀念が違ふ。昔から左甚五郎とか云ふやうな職人の話がありますが、仕事が自分の思ふやうに立派に出来る事を喜ぶ。儲かる、儲からぬを考へずにやる。この職人の氣質と云ふものがまだ一職工などの中に残つて居る。西洋にはその事は全くない。自分達の與へられて居る時間だけは十分働く。そして時間が來たならば直ぐ止めてしまふ。すると今度は女房と二人で、自轉車に乗つて歩く。これが實は向ふでは大流行でありまして、夫婦が同じセーターを着て乗る。殊にフランスにはタンデンと云つて二人乗の自轉車がある。揃のセーターで、辨當箱などをくくりつけて郊外に行く。そして森の中で寝ころんで辨當を食べて居る。それをしないと休んだ氣にならない。私は丁度その群にぶつかつて、自動車がなく、走れぬくらいでありました。遊びは遊び、仕事は仕事、仕事の中に興味を見出すと云ふ、日本人が有つて居る職人の高尚なる觀念は全くないと思つても差支へないと思ふ。

皆さんも聞いて居られるでせうが、日露戦争の時に、或る水兵が大砲の中にお守りを入れておいた事があつた。それは水兵が母親からか誰からか貰つた水天宮様のお守りだ。すると、この日本の戦ひで一番大事なのは大砲だ。俺の身よりも大砲が無事であるやうにと云ふので、それを大砲の中にはりつけて置いた。この水兵がもつて居るやうな精神があつてこそ日本の兵が強い、軍艦を拵へる時に、リベット一つ打つにしても、國の爲に打つて居るのだ。これが丈夫ならば日本の國が勝つのだと云ふやうな、國家を思ふ熱意をもつて打つてこそ丈夫になる。賃銀を一圓五十錢貰つて居るから、一圓五十錢だけやればいゝと思つて居たならば弱い。そこが日本が、外國に非常に立遅れて居たのを、この三十年の間にこんなに速く進む事が出来たと云ふ理由と、私は思ふ。この精神があればこそであります。

この前は西洋の方がよかつたと思つた。然し三十年間に我國がこんなに進歩したから別に羨ましくない。のみならず我國の方がよくなつて居る。その一つの例は、私は酒が好きですが、この前獨逸に行つてビールを飲んだ。それが非常にうまかつた。所が今度行つてみると前程に

うまくない。どう云ふものだらうと思つて考へてみると、なかに我國のビールがうまくなつたから、別に向ふのをうまいとは思はないのです。これは何も私ばかりでない。どうも日本のキリンビールはうまいと云ふので、西洋人はキリンばかりを飲んで居る。日本は知らず悟らずぢやないが、我々が感じない中に進んで来た。それは今お話をするやうな國民精神、己を空しにする、犠牲にする精神、さうして勤勉な事と職業を楽しむと云ふこの三つを國民精神の中に有つて居るから進んで来たものと云ふ事を、私は深く感じたのであります。

及ばぬ點を知れ

只今岸田君が、外國に於て多に學ぶべき點があるからと云ふお話しでしたが、これは無論あります。今私は、日本人程優秀な精神をもつて居るのではないと云ふ事を確信して参りましたのでお話をした譯です。然し他のものはまだ、至らぬ事が澤山あります。この頃國産、國産と云つて何でも國産で出来る様に言つて居りますが、なか／＼そうは参らぬことが多いの

です。私は時々工場を觀に行きますが、例へば飛行機です。これは總ての物が日本で出来るから國産だと云つて居りますが、その中でたつた一つ出来ない物がある。それはスイスから買つて居りますが、飛行機の部分に、非常な精巧な所がある。それが少しでもまはる所にどこかがあつては、廻りが悪くなる。その狂ひをみるのが、一ミリメートルの何千分の一とかをはかるものが要る。それは小さな物だが何萬圓とする。それはスイスの他は出来ない。みなその機械を買つて來てする。全部國産だと云つても、その狂ひをはかるものが出来なければ完全な國産と云ふ事は出来ない。國産で出来る出来ると云つても、さう大きな聲をする譯には参りません。さう云ふ事は努めて學ばなければなりません。私が申すのは、段々進んで來てその差が小さくなつたと云ふ事を申し述べただけであつて、及ばぬ所は澤山あります。先程も汽車のお話をしましたが、前はフランスからイギリス、イギリスからオランダに渡るに、渡船で渡つた。然し今度はイギリス海峡の顔を見ない。何故かと云ふと寢臺に入つて居ると、汽車が船に載つて渡つてしまふ。イギリスからオランダにも渡つたのでありますが、これも眼が醒めると

オランダに入つて居る。左様な譯でありまして、まだく西洋と較べては及ばぬ所が多々ありますから慢心をする譯には参りません。及ばぬ所はどこまでも追及して行かなければならぬと思ひますが、然しこれは日本の國民が、今申すやうな三つの特徴を忘れぬやうに、これを蔑にせぬやうに益々これを發揮するやうにすれば追ひつく事が必ず出来ると云ふ事を信じて居る者であります。

恵まれた物資の國

私は日本國に生れた事を非常に有難く思つて居ります。日常の生活などを較べてみましても非常な違ひであります。第一魚類、西洋の魚などと云ふものはまづくて種類が僅かしかありません。我國には種類が多くさうしてその魚が美味しい。それから野菜ですね。日本にこれまであつた大根、茄子、胡瓜、葱、午莠、燕などの他に、キャベツ、アスパラガス、花野菜などと云ふ様なものを輸入して作つて居りますから、日本程野菜の多い所はありません。果物なども

此國非常に發達して來た。アメリカは非常に發達して居りますから、アメリカは別ですが、このアメリカを除いたヨーロッパの様子は、果物などでも決してヨーロッパの比ではない。斯う云ふ潤澤なる生活を爲し得て居る日本國民は誠に有難いと云ふ事を、つくづく感じた次第であります。

又社會も、日本の社會程自由なる社會はありません。イギリスが自由の國だとか、アメリカが自由の國だとか云ひますが、それは皮相の見解であつて、あそこの社會程社會的の階級のちやんときまつて居る所はない。政府の要路に立つ人は、例へばチエンバレンは、三代も四代も續いて大臣になると云ふやうに、金持はどこまでも金持、さうして低い人はどこまでも低い所に居る。この貧富貴賤の階級と云ふものは實に劃然と立つて居る。この點日本はどうかと云ふと非常に少いのであります。この階級的思想と云ふものは、ヨーロッパに於ては非常に強い。寧ろ日本の方が親しく、さうして上下の親しみと云ふものは非常に多い。ですから日本の社會は、ヨーロッパなどに較べてはるかに健全であると考へたのであります。

女子教育への希望

そこで私は最後に、日本で一番いゝ所を今申し述べましたが、これから先、注意をして行かなければならぬ點があると思ふ。それは何かと云ふと女子教育であります。私は日本の女子教育は少しく魔道に入つて居るのではないかと云ふ事を感じた。これは何卒文部當局が女子教育に向つて力を注がなければならぬと感じて居る者であります。新文部次官が就任されたに就て挨拶を受けましたから、私の意見を申し述べて参考に供したのであります。この前ヨーロッパに行つた時に、向ふの婦人の服装が可成りケバ／＼しく、華美であると云ふ風に感じた。然るに今度、その華美の風が最も現はれて居なければならぬバリーに居りまして、バリーの婦人の簡素なる服装に意外の感じを持つた。その話を外交官に話した所が、いやそれはあなた、今年の流行は黒だから華美にお思ひにならないのでせうと云ふ事を云ひましたが、或はさうかも知れませぬ。さう言へば日本もこの頃黒が流行つて來たさうですね。然るに日本に歸つて來

て、殊に東京の街を歩くと、婦人の服装の色彩のケバ／＼しさと云ふものは、眼が實に眩惑されるやうに思へる。この間アメリカのホテル業者が日本に來まして、私共一日その人達に會ひました。その代表になつて居る者に、日本に來てどう云ふ事を感じたかと云ふ事を聞いた。すると代表者が、自分は日本に來て二つの事を感じた。一つは色のケバ／＼しいと云ふ事、そして一つはバライエティーが多いと云ふ事を著しく感じた。私はこれは誤つて居ないと思ふ。色彩をもう少し考へる必要があるのではないかと思ふのと、それからこの頃は男が意氣地がなくなつて、女の青年が強くなつて來た様に思ふ。男子の青年の教育は眞面目な風が多くある。中には不心得な者もありますけれども、一般的に眞面目になつて來た。又婦人の方でも、みんな悪いと云ふではありません。こゝに居るのはみんないゝですよ。それがどうも男子の方は地道に進みつゝあるやうに思はれるが、女子の方が少しく何と言ひますか、ゆるやかに過ぎ居る。これは一つは學校の罪だらうと思ふ。どうも學校が、私は忌憚なく今夜お話をします。が、どうも商賣にして居る學校が多くなつて來て居る。男子の方よりも女子の方に商賣學校屋

が多い。その結果が女子をして、強い訓誡を與へず甘やかす風になつたから、段々自由になり過ぎたのではないかと云ふ氣を持つて居る。この原因の觀察は暫く別として、兎に角將來の日本を左右する者は婦人です。婦人が良ければその國は榮へ、婦人が悪ければその國は滅亡する。だから國の將來を定めるのは婦人にある。今日、今まで遅くない。この女子教育に向つて、教育當局がもう一步進んで検討を加へる必要があるのではないかと痛感する。三十一年前に行きました時はまだ若かつた。すると西洋人が非常に羨んだ。お前の國は婦人が實に立派だと云ふ事を言ひました。私もその時はさうだと思ひました。今度はさう云ふ稱讚を聞いた事がありました。それは私が年取つたから、話をする人がなくなつたのかも知れませぬが、……どうか日本の國民が折角持つて居る美點、これはどこまでも喪つてはならぬのですから、喪はぬやうにする。さうして遂にはヨーロッパ諸國を凌駕して行く様になつて行くと云ふ事が、最も必要な點であらうと考へるのであります。

段々お話が横にもそれましたが、然し日本の今日の重大なる時局を左右して行くもの、それ

歐洲より日本を見る

が數字をもつて計ることの出来ない精神力に強みがある。その精神力は世界各國に、どんなに比較しても劣る所がない。非常な力、強さを持つて居ると考へます。政治に携はる人が指導を誤らず行つたならば、恐れるに足らぬと思ふ。この重大なる時期に際會して、我々は銃後の人々が、この精神を喪はず、更に練磨してこの國難に當らなければならぬと思ふのであります。私がヨーロッパで見て来た一端をお話してこのお話を終ります。

(昭和十四年一月六日生活講座講演速記)

歐洲より日本を見る(奥)

昭和十四年四月一日印刷 昭和十四年四月五日發行		著者 有吉忠一	定價十錢
歐洲より日本を見る			
發行者 岸田 軒造 <small>東京市神田區駿河台一ノ一</small>	印刷者 安藤 斯郎 <small>東京市神田區三崎町二ノ四</small>		
發行所 東京市神田區駿河台一ノ一 主人 佐藤新興生活館 <small>振替口座東京八四一五七番 電話神田四〇六八番</small>			

(行印所刷印匡一)

389
50

書るぐ捧に動運新刷活生

家産原簿の作り方 岸田軒造著 定價二十錢	農家家計簿 岸田軒造著 定價五十錢	日々の朗誦 岸田軒造著 定價五十錢	福神漬讀本 永野健著 特價十錢	飯・汁・香の物 永野健著 定價六十錢	子供の心の育て方 高良富子著 定價五十錢	新生活の設計 高良富子著 定價八十錢	標準生活の研究 楠原平八著 定價七十錢	新興家事學 小池新一譯 定價一圓	眞實を生きんとして 山下信義著 定價一圓并錢	此の人々に學べ 山下信義著 定價八十錢	歴代聖勅御製集 横田章編 定價四十錢
生活工夫 山下信義著 定價二十錢	一事貫行 山下信義著 定價二十錢	農村文化の建設 山下信義著 定價二十錢	生活計畫 山下信義著 定價二十錢	生活安定の鍵 岸田軒造著 定價二十錢	新家計簿 岸田軒造著 定價五十九錢	無病強健六則 岸田軒造著 定價四十六錢	悦びに満つる生活 岸田軒造著 定價七十九錢	ほんとうの暮らし方 岸田軒造著 定價五十六錢	生活費三割切下の提唱 調査部編 十部五十錢	非常時生活指針 調査部編 定價五十錢	新生活運動の指標を語る 暉峻義等著 定價二十錢
一ノ一台河駿・田神・京東 番七五 一四八京東替振											
館活生興新藤佐 所行發											

